

2008年度「夢の貯金箱」活動にかかる収支報告書

自 2008年4月1日
至 2009年3月31日

(単位:円)

	決算額	備考
I 収入の部		
1.寄付金収入	19,643,722	寄付件数: 184件及び夢の自動販売機からの寄付金
当期収入合計	19,643,722	
前期繰越収支差額	2,065,160	
収入合計	21,708,882	
II 支出の部		
1.事業費支出	18,490,441	NPO団体支援支出 合計11団体(※詳細は以下の通り)
2.管理費支出	0	間接経費はすべて日本財団が支出し、寄付金は100%全額支援プロジェクトに活用しています
当期支出合計	18,490,441	
当期収支差額	1,153,281	
次期繰越収支差額	3,218,441	

※支援先の詳細は以下のとおりです

支援先団体名 (活動種別)	支援金額(円)	活動内容
(特)チャイルド・ケモ・ハウス (小児がん支援)	600,000	小児がん患者が安心して化学療法を受け、家族や友だちとふれあうことができる「家」のような「夢の病院」の設立や、小児がん専門医の育成などを推進している本団体の活動資金の支援として支出しました。
(特)全国犯罪被害者支援ネットワーク (犯罪被害者支援)	3,050,000	殺人、強盗、強姦など凶悪な犯罪に遭い、医療費や当面の生活費、葬祭費などにも困窮する方が多いのが実情です。この資金は凶悪な犯罪により生活が困窮している方へ緊急支援金を支給するための基金を造成しています。これまでに夢の貯金箱から合計416万円を支援しました。1千万円の基金が造成された時点から運用を開始する予定です。
(特)災害看護支援機構 (災害看護)	400,000	大規模災害時に、最善の救命効果を得るためには、多数の傷病者を「重症度と緊急性」によって瞬時のうちに選定し、治療の優先度を決定する「トリアージ」の訓練が不可欠です。夢の貯金箱からは「トリアージ」の訓練につかうキット(怪我や火傷など大規模災害時に起こる傷等を再現したもの)の購入を支援しました。
(特)アジア教育友好協会(AEFA) (ベトナムでの小学校建設)	6,000,000	①ベトナム小学校建設(350万円):コントゥム省ダクト郡コンダオ村『コンダオ小学校』 都市部の経済発展が著しいベトナムにおいて、中部高原という山岳僻地に住む少数民族の村は、ベトナム戦争時、反政府側の支配下であったことなどから政治的にもインフラ整備が遅れています。夢の貯金箱は僻地である中部高原のコンダオ村に小学校を建設しました。(ボランティア団体アーク様指定寄付) ②ラオス小学校建設(250万円):ラオス人民民主共和国南部サラワン県タオイ郡パチュドン村『パチュドン中学校』本地区はベトナム戦争の大きな被害(枯葉剤等)を受け農業に適さないなど非常に貧困で地雷の問題も多い地区です。現在中学生は小学校に間借りして授業を受けている状態で、本建設により教育環境の充実を図ります。 ◆建設工事期間: 2009年5月~2009年12月(予定) ◆建設校内容:中学校新校舎1棟(石原拓一郎様指定寄付)
セイダナー (ミャンマーの小学校建設)	1,450,000	ミャンマーの小学校建設(145万円):シャン州タウンジー市チャウンジースー地区『タウンジー第11小・中学校』 135の民族を抱える多民族国家ミャンマー最大の国内問題は、少数民族問題(反政府ゲリラ闘争)でした。多数の少数民族が居住する山岳僻地は貧困やケシ栽培の問題や、世界からの経済制裁などにより十分な基礎教育を受けることができない子供たちが多いのが現状です。夢の貯金箱では、海外のNGOが入ることが困難なシャン州において、小学校を建設しました(匿名希望寄付者様からの指定寄付)
(財)笹川記念保健協力財団 (ミャンマーでのハンセン病回復者支援)	1,500,000	ミャンマーにおけるハンセン病回復者への支援として「新しいカヘ」スカラーシップ事業に支援しました。2008年度はマグウェイ州バコク村の18名の児童に対し、入学金、授業料、制服代、教科書代の支援のほか、この村に住む家族が交代で児童への1日1回の食事を準備する費用に充てています。今後、3つの集落で奨学金事業を展開していく予定です。
(福)カリヨン子どもセンター (児童養護施設退出後の就労支援)	1,000,000	児童養護施設を出た15歳以上の子どもたちがスタッフと一緒に過ごす「自立援助ホーム」。子どもたちは家庭的な暮らしの中で、就労し、自立資金を貯め、家事や気分転換の方法を身につけていきます。2009年4月よりホームに入居した子どもたちが即必要とする就職活動や就労するための衣服や物品を購入するため(原則1人1回まで3万円程度)の支援に使われます。寄付金が長く同センターで使われるよう、支援の際に自立した時には返金するよう呼びかけています。(ワイエスインターナショナル株式会社様からの指定寄付)
ビックイシュー基金 (ホームレス支援)	1,000,000	ホームレス状態にある人々へ、路上からの脱却はもちろん、量に上がってからも落ち着いた生活が送れるために、「生活」「就業」「文化・スポーツ活動」(貯金プログラムやキャリアカウンセリング、ダンス活動サポートなど)の3つの柱で支援を推進している本団体に賛同し、活動資金の支援として支出しました。
地球緑化センター (三宅島での植林活動)	1,000,000	2000年の三宅島(東京都)の雄山噴火から9年たった今でも、島民の生活を守ってきた森には、枯れ果てた木々が広がっています。緑豊かな島の森を復活させるため植林活動を、2回に分けて推進しています。1回目は2009年3月にヤブツバキ・オオバイボタ・ヒサカキの苗木を各200本購入し、植えました。2回目は2009年10月を予定しています。(株式会社デザインアートセンター様からの指定寄付)
(医)仁寿会 (福祉車両の寄贈)	1,090,441	故人が生前、日本財団の入浴サービスの福祉車両を利用されていたということでご遺族の方から依頼を受け、故人のお名前と「日本財団」「夢の貯金箱」のロゴマークを入れた福祉車両を購入し、医療法人仁寿会 総和中央病院居宅介護支援事業所に寄贈しました。(河口きん様指定寄付)
(特)スーダン障害者教育支援の会 (アフリカ、スーダンでの視覚障害者情報学習環境の整備)	1,400,000	3年計画でスーダン首都、ハルツーム大学で、視覚障害者の情報学習環境の向上を図るプロジェクト。 この団体は、スーダンの障害者たちの社会参加を教育を通じてサポートする日本のNPO法人です。 スーダンの首都、ハルツーム大学で視覚障害学生に音声読み上げソフトを使ったコンピューターの教育を実施していきます。 また視覚障害児童の教育支援として盲学校に点字版も送りました。 スーダンで最も人気が高いサッカーにも注目し、ブラインド・サッカー(視覚を使わないサッカー)の普及にも取り組んでいます。
合計	18,490,441	

<参考>2008年度「君和田桂子基金」によるホスピス活動支援実績

団体名	金額	団体の活動内容
NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス	1,000,000	小児がん患者が安心して化学療法を受け、家族や友だちとふれあうことができる「家」のような「夢の病院」の設立や、小児がん専門医の育成などを推進しています。「夢の病院」は2010年春の着工を目指して準備が進んでいます。
NPO法人 在宅緩和ケア支援センター“虹”	1,000,000	ホスピス勤務や進行がん患者への訪問看護を経験してきた看護師が中心となり、ケアサロン(がん患者と家族の個別療養相談、がん患者のサポートグループ)の運営を行っています。手術の是非、再発の不安、死の恐怖など、様々な思いを受け止め、病と向き合いながら生活していく道と一緒に考えていく活動。
NPO法人 山谷・すみだリバーサイド支援機構	1,000,000	「きぼうのいえ」は、東京の下町、通称「山谷」に開設された在宅ホスピス。ホームレスや路上生活者など身寄りがなく病や人生の苦難のうちにいる人々に、あたたかい食事と終のすみかを提供し、社会資源の活用によるターミナルケアを実践。
NPO法人 ホームホスピス宮崎	1,000,000	終末期にあって、自宅で最後を迎えたいと願っても、1人暮らしや老老介護などの家庭の事情で自宅に戻れない患者さんを、住み慣れた地で、家庭的な環境の中24時間ケアを提供
合計	4,000,000	

※君和田桂子基金とは、2005年度「夢の貯金箱」に寄付いただいた30,000千円により、(財)笹川医学医療研究財団に設置した基金。ホスピスケアの専門家の審査により支援先を決定しています。